



THE SERVICE CLUB FOR THE YMCAs CHARTERED IN 2010

長野ワイズメンズクラブ 会報

2016年

10月 第71号

THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGANO

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS



2016~2017 年度主題

- | | |
|--------|--|
| 国際会長 | Joan Wilson (カナダ) "Our Future Begins Today." 「私たちの未来は、今日より始まる」 |
| アジア会長 | Tung Ming Hsiao (台湾) "Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」 |
| 東日本区理事 | 利根川 恵子 (川越クラブ) 「明日に向かって、今日動こう」 |
| あずさ部部长 | 浅羽 俊一郎 (東京山手クラブ) 「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」 |
| クラブ会長 | 森本俊子 「長野クラブオリジナルの活動を膨らませよう」 |



今月の聖句

わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えさせたように勧めます。神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。 <テモテへの手紙II 1章6節>

10月 例会案内

日時 2016年10月30日(日)

会場 栄村「北野天満温泉」 4:30pm~6:30pm

1. 開会点鐘
2. ワイズソング・ワイズの信条
3. 会長あいさつ
4. ビジター・ゲスト紹介
5. 報告など
6. 卓話「栄村の今」
村長か支援員を予定しています
7. ワイズディナー
8. 自由トーク
9. ニコニコタイム
10. YMCA の歌
11. 閉会点鐘

実りの秋到来

森本俊子

新種のブドウ「ナガノパープル」と「シャインマスカット」の宣伝に乗り、友人知人に季節の便りとして贈ったところ思いがけないお返しが返ってきて驚いております。古希を過ぎてハンガリーに民話と音楽の蒐集に旅立った友人もいます。長野市北部の大地震のニュースに見舞いの電話をくれた友にも遅ればせのお礼のつもりで贈ったところ、実は10年にわたって難しい病と闘いながら暮らしていると知ったり、最愛の伴侶を亡くして、今はただその元へ早くと祈る毎日だと近況を知らせてくれた友もいます。外国人に日本語を教えるボランティアに燃えている友人は災害時の用語の難しさを嘆き、もっとシンプルに「避難勧告なんて言わないで身の回りの物をまとめて、すぐに逃げられるようにして」というような表現にできないものかと話してくれました。秋の実りが仲介して旧交を温めてくれています。

露木淳司 2日・江夏一彰 16日



クラブ会費の振込をお願いします

ワイズ会費を払うことが、ワイズ活動のボランティア参加に直結しています。今年度前期会費(7~12月分)がまだの方、18,000円のお振り込みをお願いします。(1年分は36000円です)(会計 倉石美津子)
八十二銀行 昭和通営業部(店番号 214)普通預金 □座番号 871118
長野ワイズメンズクラブ会計 倉石美津子

9月データ

在籍会員	12名
例会出席者	8名 例会出席率66%
	(メイキャップ・メネット含む)
ゲスト	1名

11月例会のご案内

とき 11月16日(水)
ところ レストラン やま
連絡先 会長または書記へ
tokoton921@gmail.com (森本)
f69a9n@bma.biglobe.ne.jp (小林)
(書記)

会長	森本俊子
副会長	福島貴和
書記	小林美彦
会計	倉石美津子
監査	塩入 隆
CS	丁 胤植
Yサービス	湯田勝彦
プリン	小林美彦
担当主事	露木淳司
庶務	水崎よし子

9月の例会報告

レストランやまで長野クラブ9月例会を18:30から行いました。
(会費1000円)

出席:森本会長、福島副会長、倉石会計、丁 y's、渡辺 y's、小林メネット、小林書記、堀内キャンディデイト、

報告事項

STEP 事業(Short Term Youth Exchange Program)で、デンマークから Esben 君(20歳)が来日している。4日間長野に滞在、水崎 y's、倉石 y's 宅でホームステイ。

倉石 Y's と福島 Y's から長野での滞在の様子を聞く。

10月2日長野市トイゴ広場で開かれる東北の復興支援イベント「さんままつり」のPR、福島 y's

丁 y's よりボランティアについて、長野聖救主教会での実践と、これからについて提案。→他所での事案を見ながら前向きに考えて行きましょと話した。

10月8日長野県主催、「感染症医療従事者等研修会」の参加について。松本市にて。

東日本区 規約改正について。クラブの意見をまとめる。10月中。

10月22日あずさ部会、東京在韓国 YMCA センターで開催の案内。

10月の例会(19日)は30日の栄村の収穫祭での特別例会のため19日は行わない。

☆10月30日(日)栄村 北野天満温泉で収穫祭&特別例会(あずさ部、ys-com で参加募集。)(日帰り6000円/宿泊12000円)栄村振興公社が業務内容を変えつつあり、福原さんや山田さんなど窓口業務を担当して下さった方たちが退職されるとともに、物品の販売も、道の駅「またたび」と新たに交渉することになる。(トマトジュースだけは今まで通り)

渡辺 y'a から台北報告。BFも視野に入れていこうと提案あり。

長野クラブの活動のためのファンドとなる、須坂の山上梨農園の梨は、今年は、台風の影響も無く、沢山用意できているとのこと。大変珍しい洋ナシです。ご注文おねがいします。

同じく須坂の障害者就労施設もえぎ、レザークラフト(革細工)についても、ファンド担当の小林までお問い合わせください。

予定していた福島ワイズによる卓話は後日をお願いすることになった。



9月18日から22日まで水崎よし子ワイズと倉石美津子ワイズがホストファミリーとなり、STEP事業で来日しているデンマークの青年 Esben さんを長野にお迎えしました。塚田佐ワイズと福島貴和ワイズにも協力していただき、充実した滞在日程を過ごされました。以下是水崎さんと倉石さんのレポートです。
水崎さんはかつてデンマークに留学され、デンマークが大好きなので、進んでホストを引き受けてくださいました。

Esben 君との5日間 水崎よし子

Vi ses! (またね!) と言って10時02分の「かがやき505号」で金沢へと列車はゆっくり発車しました。Farvel (さようなら) でなく、Vi ses だったので、これから半年の滞在中もう一度長野へ戻って来るのではと期待しつつ、見送りました。

20年前、ひとりでコペンハーゲンの空港に降り立ち、これから始まる1年間



写真 白馬のジャンプ台で 塚田佐ワイズと

に心弾んだことを昨日のように思い出しました。きっと彼も大好きという日本滞在の日々をどんなにか夢見て、10時間余りのフライト中胸躍らせたことでしょう。

9月2日に成田空港に到着から山中湖でのユースボランティアリーダーとの交流・盛岡の工業高校でのインターシップ・栃木の幼稚園児との交流・ワイズ例会などなどに出席、目まぐるしい行程に疲れも見せず、デンマーク国旗を持って長野駅で待つ私たちに手を振ってくれました。憧れの日本ではありますが、3週間も過ぎると、やはりホームシックな思いにもなるのでしょうか。私は日本の mormor (祖母) になってしまいました。これも温かな思い出です。



写真 松本城にて 侍姿でご満悦



写真 善光寺にて 善光寺を案内してくれた福島ワイズと Esben 君、水崎、デンマークと一緒に学んだ藤谷さん

倉石家の Esben 君 倉石美津子



「こんにちは！」と流暢な日本語で挨拶してから、次々と繰り出される Esben 君の日本語に、緊張していた私達家族は、ほっとしてたちまち笑顔になりました。

3人の孫たちとの関わりが、Esben 君にとっても目まぐるしい日程の中でホッとするひと時だったように思えました。

独学で学んだという流暢な日本語は子供達に本を読んでもくれるなどして、とても楽しい交流ができ、「デンマークに行きたい」「ホームステイしたい」と言い出すほど、すごい刺激になりました。

「チャレンジ」と言っっては、初めて口にする日本食などは「美味しい」と食べていました、「お醤油、生酒、焼き海苔が大好きになりました。

優しく、ちょっとお茶目で努力家の Esben 君、短くても濃い 5 日間でした。ありがとう Esben 君！



写真 ハッピー姿でご機嫌

YMCA だより

11月3日はバザーです。第56回になります。時代を超えて世代を超えて、オール山梨YMCAが一つになる年に一度のイベントです。今年もご協力よろしくお願ひ申し上げます。

さて、この一年、オールジャパンYMCAで取組まれてきたYMCAブランドを再生する作業。日本中のYMCA関係者、また、YMCAとは関わりを持たない人々からも広く情報を収集し、整理分析し、このほど、ようやくそのコンセプトが発表されました。

まずはYMCAが実現しようとしている世の中の姿としてのヴィジョン、それは、互いを認め合い高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることです。YMCAが利用者に提供する価値としては三つあり、まずは利用する一人ひとりが何かやりたくなることを見つけることができる場所でありたい。次に新しい出会いや、地域や世界の誰かとつながることができる場所でありたい。そして三つ目としては、YMCAでしか得られない、かけがえのない出会いや経験を通して、誰もが変わることができる、毎日を生き生きとしたものにできる、そういう場所でありたいということです。

つまり「見つかる」「つながる」「よくなる」これがYMCAバリューであって、さらにブランドとして備えているべき個性（ブランドパーソナリティ）としては、オープンで分かち合いの精神の下に、前向きで、周りを惹きつける魅力を持つもの、とされました。

こうしたコンセプトを基盤に、ブランディングのこれからの作業として、全国共通のスローガンやロゴマークなど、統一したメッセージを発信するためのツールが開発されることとなります。

山梨YMCAも、道路拡幅の影響による会館取り壊しなどを控え、大きな岐路に立たされています。このブランディングの流れを大いに活用して、時代の波にしっかり乗って新しく生まれ変わる千載一遇のチャンス到来！と感じています。

露木淳司

山梨YMCAのバザーについてはクラブのMLで詳しくお知らせしますので、ご協力をお願いいたします。